

本研究所も4年目を迎えることができました。昨年度は、皆様のご協力で、大きな成果を上げることができました。今年度もよろしくお願いいたします。



3月20日（水）、は各小学校の卒業式。

名向小学校では、NPO法人小網代パール海育隊の皆さん等の協力で、真珠の核入れや浜揚げを行っています。卒業式で、小パール隊の皆さんが、浜揚げをした真珠で作ったネクタイピンを、卒業生全員にプレゼントしました。



アクセサリにしてくれたのは、横須賀の倉茂宝飾さん、ボランティアで、加工していただきました。小パール隊のみなさん、倉茂さん、たいへんありがたく、深く感謝いたします。



6年生は、今年1年間、「つながる輪～名向と人と海と～」というテーマで学習を進めてきました。卒業式の中でも、真珠の核入れ、浜揚げなど、海洋教育について触れる部分もありました。

式終了後、小パール隊の出口理事長、日高副理事長、倉茂宝飾の倉茂代表が音楽室に招待され、お礼のセレモニーが行われました。

世界に一つだけの、自分を取り出した真珠をずっと大切にしてほしいと思いました。



4月17日（水）学校教育研究会総会での、講演会について その1

講師は、日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノさん、講演タイトルは「今こそ伝えたい 地球温暖化最前線国キリバスのこと～いつまで他人事?～」

ケンタロ・オノさんは、1977年に仙台で生まれ、高校1年の時にキリバスの高校に留学、2000年には、キリバス国籍となりました。2011年の東日本大震災を契機に、仙台に再移住して、地球温暖化に対する警鐘を鳴らす活動をしています。キリバスの正装での講演となりました。

演となりました。

キリバスは、赤道直下、太平洋の島国で、33の島からなっています。人口は11万人、面積は811km²ですが、EEZ（排他的経済水域）は355万km²という海洋大国です。現状では、世界の最貧国のひとつだそうです。主食は輸入された米と地元でとれた魚です。

右は、キリバスの国旗ですが、「海と生き 海に生かされる国」という意味が込められているそうです。デザインされた鳥は、軍艦鳥です。

そのキリバスは、今、存亡の危機に面しているそうです。この地域は、もともと台風が発生しにくいところだったのですが、ここ数年、今までに経験したことがないような嵐や干ばつに襲われることが多くなったそうです。その結果、高潮や海岸浸食が起こっています。（次号に続きます）



（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで